

議長（志村 忠昭）

これをもって、11番渡邊美喜子議員の質問を終わります。

次に、2番、塩野拓二君。

議員（塩野 拓二）

おはようございます。

2番塩野拓二です。一般質問させていただきます。

1点目は、JR多度津駅周辺整備についてです。

平成28年8月に、ようやくJRとの跨線橋の工事協定が締結されました。

いよいよ古くなって通勤通学で利用する人達の為の、安心安全な道路として、また災害時における緊急避難道路として、架け替えを急ぐ跨線橋の工事がやっとスタートとなりました。

跨線橋を利用する人々、JRにとっても、待ち望まれていたことだと思いません。

ただ今回の工事では、車椅子、老人のためのエレベーターが付いていない。

南北へ降りた時の、周辺の整備が依然できていない状況であります。

そして平成32年には、JR多度津駅バリアフリー化に伴い、駅全体の整備を、JR側ともすすめていかなければなりません。

そして議会でも、「多度津駅周辺整備開発特別委員会」を立ち上げ、JR、多度津町、議会、一体となり、これから先の中心的な場所となる、多度津駅周辺の検討を早急に、協議していく必要があると思います。

町民の一部の有識者からも、1日の乗降が4,000人もあり、多度津町で一番人が行き通う多度津駅を利用し、周辺整備をすべきとの声も聞かれます。

多度津町の庁舎、福祉センターも老朽化で、建て替えが望まれています。

財政面のこと、JRとの折り合い、難しい問題が山積しています。

しかし、町の将来構想として、長期的にはなりますが、一步ずつに前に進めていって欲しいのは、私だけでなく町民みなさんの願いであると思います。

そこで質問です。

これからの5年先、10年先の町長の多度津駅周辺のビジョン、思いがあれば、お聞かせください。

よろしく申し上げます。

町長（丸尾 幸雄）

塩野議員ご質問の「JR多度津駅周辺整備について」の答弁をさせていただきます。

予讃線多度津駅構内自由通路（緊急避難路）新設工事につきましては、6月29日開催の第2回多度津町議会臨時会におきまして、JRとの協定の承認を頂き、現在、駅ホーム内の掲示板及び、自販機等の支障物の移動につきまして

は、一部着手しているところでございます。

尚、本格的な建物撤去及び、作業ヤード整備等につきましては、11月以降の予定でございます。

議員のご質問の中にもあります「町の将来構想」につきましては今後の多度津町の進む「まちづくり」の柱として考えられるのは、都市の機能を拠点に立地させる「コンパクトシティ」及び、公共交通サービス機能を維持・発展させる都市交通施策を両輪とした計画が必要であると考えており、交通結節点の重要性を認識しつつ、駅とその周辺こそが都市再興の中核になると考え、まず立地適正化計画を策定し、住民が安心して快適に暮らせる「まちづくり」を目指したいと考えております。

避難通路につきましては、来年度末の完成を目指しており、地上取り合わせ部分、また駅を含めたエレベーターなどのバリアフリー化につきましても、早急な対策及び検討をして参ります。

併せて、今後、町としての都市再生整備計画を作成し、関係機関との連携をとりつつ、公共施設等の周辺整備についてもその中で執行計画を練り、多度津町都市計画マスタープランの見直しを行うことで、将来の多度津町の「まちづくり」の礎にしたいと考えております。

この整備計画期間といたしましては、交付金の期間が1期おおむね3年から5年とされていることから、全体の整備構想を検討する中で、2期にわたる可能性もでてまいります。

いずれにいたしましても、議会の皆様にもそれぞれの計画について、ご意見をいただきながら取り組んでいきたいと思っておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げます、答弁とさせていただきます。

議員（塩野 拓二）

ご答弁ありがとうございます。

エレベーター及びバリアフリー化に関しては、町民皆の思いであると思しますので、早急に対応をよろしく願いできたらと思います。

後、多度津町の庁舎、福祉センターの老朽の問題で、その多度津駅周辺にという声も聞かれます。

この中で駅とその周辺こそが都市再興の中核になると考えられるというお答えですけど、いろんな計画に従って最適な場所にしなければいけないと思うんですけども、交通の便、土地の広さ、人口密度、それと交付金の問題もありますが、町長としての思いとしてはこういう問題がありますけども、現時点での町長の思いとしては、庁舎とか福祉センター、その他を駅周辺にという思いがあるかどうかもう一度お答えいただけたらと思います。

お願いします。

町長（丸尾 幸雄）

ただ今の塩野議員のご質問にお答えをしまいがちですが、今から私がお答えすることは私の頭にあるということをもっと前提としてお話をさせていただきたいと思います。

今から議会の皆様にも色々と具体的なことのご相談をしまいがちですが、今私が考えていることとしてのということでお聞き願いたいと思います。

まず庁舎が老朽化しておりますし、同じように福祉センターも老朽化しております。

これは建て替えをしなければいけないことになります。

その時に今、東日本大震災の大きな津波を受けた後で、このエリア、JR多度津駅から北のエリアは浸水エリアになっておりまして、その浸水エリアに新たに公共施設を作るということはできないということがあります。

その中におきまして多度津町としての候補地と考えますと、やはりJRの南側、今、跨線橋の建て替えをしておりますが、その所、パークアンドライドとかそういうところになるのではないかなと思っております。

そこにただ町役場と、それから福祉センターを建て替えするだけではなくて、今たいへん大きな課題になっています地方創生ということをもっと大きく考えて、多度津町の町づくりの拠点となる、町の活性化の拠点となるものを作りたいと思っております。

その為にはやはり、いつもこれは私の根本的な考えなんですけども、町行政だけではできないので、民間の活力、またそれぞれの知恵、そういうものを考慮しながらできるだけ財政の負担がかからないように、皆さん方の企業も含め、銀行さんも含め、また議会の皆様方のご理解も含め、そういう形でできるだけ効率的に、また効果的なそういう施設の建設を今考えているところでもあります。

その為にはまず都市計画マスタープランを作成しなければいけませんので、それが出来次第議会の方にも上程をさせていただいて、ご意見を頂戴いたしたいと思っておりますのでその時にはどうかよろしくお願いを致します。

議員（塩野 拓二）

ご答弁ありがとうございました。

私自身も同じ思いをもっていますので、多度津駅周辺開発整備特別委員会も含めて一緒になって一朝一夕にはいかないとは思いますが、多度津町の活性化のために頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いを致します。

2点目です。

2点目は、多度津町の4幼稚園、4小学校のこれからのあり方、老朽化の問題に

ついてです。

多度津町内にある、幼稚園、小学校は古く、おそらく私の父親、母親の時代まで遡り、非常に歴史と伝統があります。

私自身も多度津幼稚園、多度津小学校の出身で、そのことに誇りを持っています。

私たちの時代は、第2次ベビーブームでもあり、たくさんの園児、児童で賑わっていたことを覚えています。

しかし現在、少子高齢化の波の中で、園児、児童の数は減少傾向にあります。

また、各校によって減少の度合いには、地域的な隔たりが見られます。

以前、校区の問題、幼稚園の募集の問題がありましたが、中々前に向いて進めていけないのが現状であると思います。

また、校舎、園舎は築後40年から50年を経過し、施設、設備の老朽化も随所にみられ、これから先10年の間、同時期的にいたるところで、校舎、園舎の改築に迫られてくると思います。

そして近年は、お母さん方の多くが仕事をなさっているため、「学童保育の充実」の問題も浮き彫りになっています。

こうしたことから、家庭や地域のライフスタイルは大きく変わり、4幼稚園、4小学校が、大きな転換期を迎えていると思います。

「新しくなっていく社会に対応していくための教育」、「これからの担う子ども達の、豊かな心を育むための環境づくり」。

多度津町の教育問題は非常に多く、喫緊の課題だと思います。

一朝一夕にはいかないと思います。

しかしこれらの問題を「今」から始めなくては、そして、この素晴らしい多度津町を担う子ども達のために、早く取り組んで欲しいと思います。

そこで問題です。

町長はこれからの、多度津町の4幼稚園、4小学校のあり方をどのようにお考えですか。

またどのようにしていきたいと思っておりますか。

また教育長は、幼稚園、小学校の問題について、定期的に検討する予定はありますか。

どのように進めていくお考えですか。

よろしくお願い致します。

町長（丸尾 幸雄）

塩野議員の「多度津町の4幼稚園、4小学校のこれからの在り方、老朽化の問題について」のご質問にお答えをしております。

子どもは多度津町の宝です。そのため、多度津町では豊かな心を育てる学校教育の充実を図ろうとしており、望ましい教育環境の充実は極めて重要であります。

これまでは、子どもの命を守ることが第一と考え、子どもの生活・学習の場である学校施設の耐震化を優先事項と考え取り組んでまいりました。これからは、築40年から50年を経過する園舎・校舎への対応、園児数・児童数の減少傾向等に伴う園・学校規模の適正化への対応などの課題があります。こうした課題について、計画的に解決を図る必要があります。

そのため、第6次多度津町総合計画では、「学校規模の適正化に関する協議の実施」を通して「基本方針の策定」を平成28年度～29年度の重点取組としています。総合計画を着実に遂行する中で、計画的に学校教育の充実を図りたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願い申し上げ、答弁とさせていただきます。

教育長（田尾 勝）

塩野拓二議員の「多度津町の4幼稚園、4小学校のこれからの在り方、検討予定について」のご質問にお答えをします。

文科省は集団の中で、切磋琢磨しながら学習したり、社会性を高めたりという学校の特質に照らして学校は本来、一定の規模を確保することが望ましいとして適正規模や適正配置について検討し基本的な考え方については手引きにまとめています。

活力ある学校づくりをどのように推進するかは、地域の実情に応じたきめ細かな分析による各設置者の主体的な判断としています。

町内の幼稚園、小学校においては少子高齢化の波の中で、園児、児童数は減少傾向にあります。

しかも減少傾向の度合いは地域的な偏りが見られます。

先程町長が答弁申し上げたように、総合計画を着実に進めるために学校規模の適正化について、教育課題検討委員会を立ち上げ教育委員会から今後の町内幼稚園、小学校のあるべき姿と適正規模、適正配置について諮問を行ったところであります。

これによってどのような幼稚園、小学校を作るのか、幼稚園、小学校の数をいくつどこに配置するなどについてご意見をいただきながら、答申を作成することになると考えております。

29年度末には答申を受け、教育委員会、総合会議では実施に向けた審議を行います。

また、その検討状況については、議会に適宜報告し、ご意見をいただきながら案の具体化を図ってまいりたいと考えております。

なお、教育課題検討委員会は、大学教授、副町長、自治会長、園長会代表、校長会代表、幼稚園と小学校のPTAの代表、保育所長会代表、教育委員会代表から構成されています。

様々な方々の意見を取り入れ、多面的に捉える資料を整え、調査審議を行い、多度津町の教育の方向性を示すことができる検討委員会にしたいと考えておりますので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

議員（塩野 拓二）

ありがとうございました。

再質問ですが、また町長にご質問です。

今現時点で、4幼稚園、4小学校、40年、50年経っていますから、年数が経てば当然建て替えという問題、あと少子高齢化の問題もあると思うんですけど、町長の今の思いで結構なんですけども、今の4幼稚園、4小学校、これを年数が経てば建て替えをしないといけないのか、それとも4幼稚園、4小学校の数の問題が、その思いだけで結構なんですけども、今の多度津町の人口の中では多いのか、少ないのか、お答えできる範囲で結構なんでよろしく願いたいと思います。

町長（丸尾 幸雄）

塩野議員の再質問にお答えをしておりますが、今私の方から、また教育長の方からも答弁をさせていただきました。

そのことの繰り返しになるかもしれませんが、まず今私が考えていることというのは、4年ごとの2期に渡る計8年の総合計画を策定しております。

その中に学校規模の適正化、それから数の適正化、そういうことをこれから考えて、また平成29年までには、これから2年間ですね、その間には教育課題検討委員会、または教育総合計画、その中で答申が出てまいりますので、その事をふまえて議会の皆様方にも慎重審議をいただきますように、忌憚のないご意見を頂戴いたしますようなそういう機会を設けて、議会の皆様方の考えを基にしながら、また再度執行部の方からも案を作りたいと思っております。

今、塩野議員さんのご質問の中で、私が個人的にいくつかの学校の数を考えているのかということに関しましては、今から議員の皆様方にもお諮りをしていかなければいけない、また教育総合会議、そして教育課題検討委員会の中で忌憚のないご意見を頂戴いたします中で、私の個人的な見解というのはお控えをさせていただいた方がいいのではないかと考えております。

どうかご理解賜りますようお願いを申し上げます塩野議員の再質問に答えさせていただきます。

議員（塩野 拓二）

ありがとうございました。

なかなかお答えしづらい問題だったと思うんですけども、平成29年度に何らかの答えを出さないといけないということで、4幼稚園、4小学校どこも伝統と歴史がありますので、なかなか難しい問題とは思いますが議員含めて一緒に考えていきたいと思えます。

後もう1点だけ教育長に質問です。

この中に教育課題検討委員会を立ち上げられているということでもありますけども、我々議員の中でも声があるんですけども、この委員会の中に議員という名前が入っていない。

私たちも一緒になって考えていきたいという気持ちは多分議員の皆さん一緒だと思うんですけども、そこに関して議員が入っている、入っていないということに関しては如何かなということをご質問したいなと思えます。

29年度までに答えを出すということであれば、月に1回とか2カ月に1回とか課題がなくても皆が集まって話す機会というのは必ず必要だと思うんですけど、それに関してはいかがでしょうか。よろしく願いいたします。

教育長（田尾 勝）

塩野議員の再質問にお答えをします。

まず第1点は、議員の皆様例えば今までなりがちだったのですが、報告して議会の承認を得るというスタイルではなくて、検討委員会で案を検討していくわけですけども、議員の皆さまからも意見聴取とか或いは今提案されたそれについて経過で話し合う場を設けたりとかいうことで、できるだけ色々な人の意見、特に議会の皆さまの意見をお聞きしながら検討委員会を進めてまいりたいと思えます。

先程、質問があったんですけども、また議員の皆さまにもそういう機会をぜひ私としても持ちたいと思えますので、それで進めていくという形でいきたいなと思っておりますのでよろしく願いいたします。

ご協力よろしく願いいたします。

議員（塩野 拓二）

ありがとうございました。

1点だけ、定期的に委員会を開催して欲しいということに関してですけども、この問題は29年度までに答えを出さないといけないところと、将来を担う子ども達にとって一番大事なことだと思えますので、議員も含めて一緒になって考えていきたいという気持ちは皆さん一緒だと思えますので、とにかく定期的にお話をする場を設けていかなかったら中々前に進んでいかないと思えますので、ぜひ定期的に開催をしていただいてこの問題について議会と執行

部一同取り組んでいけたらなと思いますので、よろしくお願ひします。
以上です。
ありがとうございました。